

第 31 回三遠南信サミット 2023 in 遠州

第 3 分科会 報告書

1. テーマ

魅力を創る連携（多様な主体による連携）

2. 概要

三遠南信地域の発展には、官民連携や住民参画など多様な主体と連携しあってブランド力を高めていくような地域活性化の取り組みが求められている。先駆的な取り組みを行っている「せとうち DMO」の事例を参考に、本地域の個性豊かな特色を持つ資源の価値を見直し、魅力発信の方法や連携の可能性について、三遠南信全体で意見交換を行った。

3. 日時

令和 5 年 10 月 30 日（月） 午後 1 時 00 分から午後 2 時 50 分

4. 会場

グランドホテル浜松 2 階 桃山の間（静岡県浜松市中区東伊場 1-3-1）

5. 登壇者一覧

No.	団体名	役職	氏名	役割
1	（一社）ほの国東三河観光ビューロー	マーケティングディレクター	田中 三文	コーディネーター
2	（株）瀬戸内ブランドコーポレーション	代表取締役社長	田部井 智行	事例紹介
3	豊橋市	市長（SENA 副会長）	浅井 由崇	発言者
4	新城市	市長	下江 洋行	発言者
5	設楽町	町長	土屋 浩	発言者
6	豊川商工会議所	会頭	小野 喜明	発言者
7	蒲郡商工会議所	会頭	小澤 素生	発言者
8	田原市商工会	会長	河合 利則	発言者
9	磐田市	市長	草地 博昭	発言者
10	浜名商工会	会長	吉田 清和	発言者
11	森町商工会	会長	鈴木 康之	発言者
12	飯田市	市長（SENA 副会長）	佐藤 健	発言者
13	駒ヶ根市	市長	伊藤 祐三	発言者
14	NPO 法人てほへ	副理事長	大脇 聡	発言者
15	NPO 法人地域づくりサポートネット	代表理事	山内 秀彦	発言者

6. 議論内容

(1) 説明 (13:00~13:05)

(2) 事例紹介 (13:05~13:25)

せとうちエリアでの観光地づくり ((株)瀬戸内ブランドコーポレーション)

(3) 意見交換 (13:25~14:40)

ア 観光振興全般についての取り組みについて

(官民連携や住民参画連携などの強みを生かしたブランド力を高める取り組みなど)

イ 連携の強みを生かしたブランド力を高める取り組みに関する他地域との連携(横展開)の提案について

(4) 議論のまとめ (14:40~14:50)

7. まとめ

(1) 地域の特徴を尊重

個々の地域ブランドを一気に繋げるのではなく、1つ1つのキーワードを繋げながら一つずつ行っていくことが大切。

(2) 三遠南信のブランド

せとうちエリアのような世界的なブランド力は、現状、三遠南信地域にはない。それぞれの特徴を生かせば、三遠南信のブランドが生まれてくる可能性があるため、いかに探っていくかが大事。

(3) 生かすべきブランドの方向性

海、山、川、湖それぞれの地域にある自然資源のイメージを生かしたブランド作りは、1つの方向性である。その中にアウトドアツーリズムがあり、さらにその中にサイクリング、トレッキング、オリエンテーリングがある。塩の道という文化的側面の繋がりや、飯田線のサイクルトレインといった電車を使って繋げていくイメージもあり、それを1つ1つ具体化していくことが重要。三遠南信地域は広く、膨大なエリアのブランド力を作らないといけないため、自然を生かしたブランドイメージはまとめやすい。

(4) ブランド化による地域活性化

ブランド力をもって地域連携することがゴールではなく、いかに地域内の消費循環を促すかが大事。食や特産品の活用や、アウトドアツーリズムの推進だけでなく、観光客にいかにか消費してもらうかを含めて連携していく必要がある。

(5) 担い手と推進体制

三遠南信地域連携ビジョンやサミット宣言の内容について、かじ取り役や推進体制が必要である。いずれ担い手となる若い世代に対して、我々が進めようとしている連携事業をいかに伝えていくのが重要。

(6) 大きなチャンスであるアクセスを生かす

蒲郡市と豊川市を結ぶ国道23号線バイパスが完成すれば、浜松バイパスと繋がり、遠州地域と東三河地域が繋がる。さらに三遠南信自動車道の東栄ICと鳳来峡ICが繋がれば、南信州地域にも近づく。JR飯田線はリニア中央新幹線と東海道新幹線を繋げる役割を果たす。広域連携がより具体的になり、これらをどのように生かすのか、連携事業や推進体制を含めて今から準備を進めることが重要。

8. 当日の様子

